

平成 20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
第 5 回地域検討会（石川県） 議事概要

日時：平成 20 年 11 月 28 日（金）
14:00～17:00

場所：石川県地場産業振興センター第 13 研修室

議 事

開会（14:00）

- 1．開会の辞
- 2．資料の確認
- 3．議事

第 4 回地域検討会議事概要及び指摘事項について〔資料 1、資料 2〕

石川県羽咋市地域における調査結果〔資料 3-1〕

石川県羽咋市地域における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見〔資料 3-2〕

石川県羽咋市地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について〔資料 3-3〕

質疑・意見交換

- 4．その他連絡事項

閉会（17:00）

配布資料

資料 1 第 4 回地域検討会（石川県）議事概要（案）

資料 2 第 4 回地域検討会（石川県）の指摘事項に対する対応（案）

資料 3 地域検討会報告書(案)

資料 3-1 第 章 石川県羽咋市地域における調査結果

資料 3-2 第 章 石川県羽咋市地域における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見

資料 3-3 第 章 石川県羽咋市地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について

資料 3-4 第 章 資料編

参考資料 1 今後の調査スケジュール（案）

平成 20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（石川県）
第 5 回地域検討会（石川県） 出席者名簿

（敬称略）

検討員（五十音順、敬称略）	
池 田 幸 應	金沢星稜大学人間科学部 教授
泉 敏 克	羽咋都市広域圏事務組合 環境保全課 課長
浦 上 豊 成	クリーン・ビーチいしかわ事務局 事務局長
川 井 康 子	羽咋生活学校 元代表
坂 本 幸 彦	石川県農林水産部 次長兼水産課長
（代理 栗森 勢樹）	同 水産課 参事
中 川 達 雄	石川県土木部羽咋土木事務所 所長
（代理 吉岡 義明）	同 維持管理課長
中 道 康 男	海上保安庁第九管区海上保安本部金沢海上保安部 警備救難課 課長
西 川 孝 蔵	石川県環境部廃棄物対策課 課長
宮 丸 克 巳	国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所 工務課 課長
山 本 張 喜	羽咋市環境安全課 課長
（代理 北 雅晴）	羽咋市環境安全課 環境資源係長
横 田 國 明	羽咋市建設課 課長
オブザーバー（所属機関名）	
石川県環境部廃棄物対策課	
環境省	
小 沼 信 之	環境省 地球環境局 環境保全対策課 係長
岩 田 浩 幸	環境省 中部地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)	
岸 本 幸 雄	取締役環境コンサルティング部門 部門長
内 藤 治 男	環境設計ユニット
常 谷 典 久	HSE ユニット

議題1 第4回地域検討会議事概要及び指摘事項について(資料1、資料2)

質問・コメント等はなし。

議題2 石川県羽咋市地域における調査結果について(資料3-1)

- 1) 石川県のゴミの漂着量が、他の地域と比較すると、最も少なかったという表現があるが、ここでは漂着ゴミの量というよりも、10m四方のゴミの密度を表しているため、書き方を少し工夫する。

議題3 石川県羽咋市地域における漂流・漂着ゴミに関する技術的知見について(資料3-2)

質問・コメント等はなし。

議題4 石川県羽咋市地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について(資料3-3)

- 1) 羽咋市では、河川愛護のために水防月間である6月初旬の日曜日に、ほとんどの河川敷で地域の住民が草刈りをしている。草があると流水の障害にもなるためである。1週間か10日間置いた後に焼却する場合もあり、6月は梅雨どきでもあるため、今年は大雨になって、邑知潟(おうちがた)に島状にヨシが堆積して、県の土木部で取り上げた。ヨシの処理は難しい。
- 2) クリーン・ビーチいしかわのという組織は、県知事をはじめとして各県議会議長など名を連ねており、陣構えは大変立派であるが、その実態は各市町のご協力のおかげであり、最近は高校、大学等、一般企業からの参加希望があつて、運動が活発になっている。一方、事務員は2人というのが実情である。
- 3) これまでは海岸ゴミの回収に注力してきたけれども、これからはゴミが出ないようにするような方向にも進んでいかななくてはならないと思っている。海岸清掃に参加してもらうことが、ゴミを捨てないようなモラルの向上につなげていきたいと思っている。
- 4) 石川県のクリーン・ビーチいしかわは、全国的にも1つの先駆的な事例である。この意識を高めることとその活動を拡張していくことが非常に有効であると思われる。
- 5) 市町村や地域住民があらゆる場所で、海岸の愛護、海岸のゴミ、河川や地域全体でのポイ捨て防止に至るまでの取組みを促進する必要があるが、そのための役割分担が重要ではないかと思う。
- 6) これについては、これからの課題で、こういった場で関係者が集まりながら、それぞれの役割分担を議論していくという状況になっていると思っている。まずは、議論を進めて、こういった形であれば、この地域で清掃や処理がやりやすいのかということも議論していくのが重要であると思っている。
- 7) クリーン・ビーチいしかわのような県民の組織、活動は、他にはないと思われるが、このような活動の普及を支援するための支援について、環境省から県や市町村を通じての予算や事業が1つの対策となると思われる。
- 8) 具体的に処分費が記載されているが、その処分費は事業系の一般廃棄物の施設使用料であつて、実際にゴミ処理に係る経費はもっと高いので、処分費が安く上がっているような誤解を受けないようにする。
- 9) 下流側の漂着したゴミよりも、上流側で対応したほうが一番効率がいい。例えば、草刈りの場合には、処分施設へ持ってきてもらってもいい。しかし、ゴミ処分費が非常に高騰している現在、できるだけゴミを少なくしたいというコンセプトがある。
- 10) クリーン・ビーチいしかわの中でも「リバー・クリーン」として、海岸清掃と同じように地域の方が、もう少し意識を川にも向けるだけで、かなりのボランティアの方が参加してくれる可

- 能性があると思った。さらに、河川のゴミに係る費用の支援や給付等の必要性を強く感じる。
- 11) 自治体で処分できない信号弾や火薬類などは、県域を越えて処理ができない場合もある。これらは一般廃棄物、産業廃棄物のどちらになるのかわからない。
 - 12) 国の補助金のメニューは、同じ漂着物であっても、環境省と国交省で量や対象が違うので、国として省庁会議で統一したメニューに近づけてほしい。
 - 13) ヨシを刈り取る必要性の議論はなかったのか。刈らないと用水が流れにくいとすれば、刈る範囲を狭くすることも、発生源対策の1つである。下流での対策の費用、上流での対策の費用を比較する検討の必要もあるだろう。
 - 14) 団塊の世代が定年になるので、ボランティア活動に向けるような社会になってもいいかという思いがある。
 - 15) 団塊世代を活動させるにも、クリーン・ビーチいしかわのような母体が重要である。そして、清掃活動に携わる人々を多くつくるのが原点の1つではないかと思う。また、清掃活動でできるところとできないところを、お互いに補いながらやっていけばいいのではないかと思う。こういった協議会やクリーン・ビーチいしかわなど、皆が協力する気持ちがあれば、何とか解決できると思う。
 - 16) 危険物については、国土交通省が中心となって対応ガイドラインの策定を検討しており、近く配布されるだろう。これは、海岸管理者に対するガイドラインであり、危険物を発見したときの通報窓口や連絡体制、処理体制等を事前にマニュアル化するように勧めるものである。
 - 17) 漂着ゴミがすべて一般廃棄物であるという誤解があるので、説明をさせていただく。漂着ゴミの対応については、清潔保持の義務を負う海岸管理者が一義的には責任を持つ。漂着ゴミは回収されて処理をする段階ではじめて廃棄物処理法の適用を受け、その際に廃棄物の区分に従って産業廃棄物と事業系一般廃棄物に分類し、適正に処理するのが原則となる。排出者は、海岸管理という事業によって生じたゴミという扱いとなり、海岸管理者となる。
 - 18) 補助制度については、国土交通省・農林水産省、環境省とも、できる限り地域の声に応えるべく制度の拡充を行っている。これ以上の制度の拡充は困難であり、現段階では制度の周知徹底及び活用の呼び掛け、効率的な運用を進めている。
 - 19) 石川県は、先駆的にクリーン・ビーチいしかわという組織があつて、全県を挙げて活動しているので、この協議会をクリーン・ビーチいしかわに設けて、継続的に検討する方向性もある。これを全国的に世界に向けて発信する。対岸の韓国、中国等とも連携が必要であろう。国としても、石川県全域、あるいは、クリーン・ビーチいしかわにより支援をと思う。
 - 20) 能登半島には、かなり岩場もあり、海岸によって違う可能性もあるので、今後、継続調査が必要と思っている。今度は、できれば地域住民の教育を推進しながら、その効果を把握するという継続調査の必要があるのではないかと思う。
 - 21) 滝海岸から回収したゴミは、考えられないような大量のゴミであつたと思う。普通の海岸を清掃する倍以上の労力を使った。今回実施したような大がかりな清掃はなかなか難しく、今後、何年も清掃されなかったらどうなるのだろうかとの懸念がある。追加調査ができないだろうか。
 - 22) クリーン・ビーチいしかわも、それほど住民には知られていないので、各地域での推進員みたいな制度をつくりながら啓発活動をやっていく。海岸清掃がモラル向上につながるので、発生抑制の啓発活動につなげていけたらいいという思いがある。
 - 23) 第 4 章の調査結果に、クリーン・ビーチいしかわの活動を大々的に宣伝してほしい。 -26 頁の表に、全県的で継続的な毎年の活動であること、 -30 頁の備考にも記載する。「こういうことをやっているから石川県は海岸漂着ゴミが少ないんですよ。1つの大きなモデル地区になりますよ」ということをアピールしてほしい。
 - 24) 河川流域に着目した発生源対策を念頭に置きつつ、クリーン・ビーチいしかわの周知徹底を図

るため、各市町村の市報にクリーン・ビーチいしかわや漂着ゴミについての広報をしては良いのではと思う。なるべく予算がかからない活動から進めて欲しい。河川上流の方にクリーン・ビーチいしかわの活動に参加してもらい、普及啓発による発生源対策を進められれば理想である。このような提言をするための基礎資料として、クリーン・ビーチいしかわの実績（年々の参加人数、回収したゴミの量、参加者の特徴や地域別割合等）を後日教えていただきたい。

議題5 質疑・意見交換

質問・コメント等はなし。